

# セポ ・ レポ ・ ハイスクール Cepo Repo ・ HighSchool

第12号 (2021年10月 発信)

地域連携教育推進室員が県立高校等に赴き、各学校の地域連携教育の取組をレポートします。このレポートのタイトルである「セポ・レポ・ハイスクール」の「セポ」は「地域連携教育推進室」を表す「Community Education Promotion Office」の、「レポ」は「Report」の略称です。

## 県立光丘高等学校の取組



光市職員による防災の講義



光市の防災についての資料



疑問点について話し合う生徒



劇にどう生かすか話し合う生徒

6月7日(月)に、県立光丘高校有志生徒による防災実行委員会と演劇部が、光市立浅江小学校5・6年生を対象に「地震と津波」をテーマにした劇やクイズを披露しました。

光丘高校は、令和2年度から県立光高校との再編統合により、今年度末をもって閉校となり、現在3年生118名が最後の1年間を過ごしています。

光丘高校の浅原校長先生は、「光丘高校の最後の1年となるが、様々な機会を通じて地域とつながることで地域から愛され、生徒たちが卒業する際には、生徒一人ひとりが主役として、地域の方々に温かく見送っていただけるような学校づくりを進めていきたい。」と思いを語っていらっしゃいました。今回の企画は、「光丘7色プロジェクト(閉校に向けた各種イベント)」の一部となります。**ポイント!**

昨年度、光丘高校は浅江中学校生徒会、光警察署と連携し、浅江中学校の1、2年生を対象に「SNSの正しい使い方」等について演劇を取り入れた講座を行いました。大変好評を博し、市内の他の中学校からも講座の依頼があったそうです。今年度は、あえて昨年度とはテーマを変え、さらに、校内で実行委員を募集することにしました。これは、様々な機会を通じて、生徒一人ひとりが主役になれるようにという浅原校長先生のねらいもあって、チャレンジしたとのことです。**注目!**

上演に先立ち、実行委員会と演劇部の生徒は、4月23日(金)に光市総務部防災危機管理課の職員の方から地震や津波の仕組みや光市の防災への取組についての講義を受けました。生徒たちは、小学生に何をどのように伝えるのかを念頭において熱心に話を聞き、質問をしていました。講義後には、早速、どのような劇が考えられるか、何が課題になりそうかについて生徒同士で話し合っていました。実行委員の生徒にインタビューをしたと

ころ、「地震や津波について学んだことを家族や幼い姉妹に伝えたい。学んだ内容をしっかり伝えられるように、自分もこれからしっかり調べなければいけないと思った」と語り、災害安全について学びを深めている様子でした。

注目!

また、なぜ実行委員に応募したのかを尋ねると、「自分が浅江小学校出身なので、母校に恩返しをしたいという思いがあったから」との回答があり、生徒の中に地域への愛着がしっかりと育まれていることも感じられました。また、この取組の担当者である山下先生は、「この機会を通じて生徒に期待することは、様々な立場の人と関わること。卒業後に語ることができる体験をしてもらいたい」と、ねらいとビジョンを語ってくれました。

当日の劇やクイズの様子は、10月17日(日)10時55分からの地域連携教育広報番組「はつらつ山口っ子」で放映されることになりました。

ポイント!

光丘高校の生徒や浅江小学校の児童の様子を、ぜひ、御覧ください!

### KRY 山口放送 地域連携教育広報番組「はつらつ山口っ子」

学びをつなぐ、地域をつなぐ ～コミュニティ・スクールの仕組みを生かした校種間連携～  
10月17日(日)〈11月21日(日)再放送〉午前10時55分から午前11時10分まで



素晴らしい完成度の演劇



感想を述べる浅江小児童



取材に応じる光丘高生徒



担当の山下先生と生徒

劇では、小学生が災害を自分事として受け止められるよう劇中の舞台を浅江小学校にしたり、臨場感を出す効果音や途中で笑いを誘う演出を入れ込むなど大変工夫されたものであり、事前に光丘高校の生徒たちが調べ、考え、繰り返し練習してきたものが十分に表現されていました。ここでは、取組後の皆さんの感想・コメントをお伝えします。

今日は、いざという時にどう行動するのか考えておくことが大事だということを学びました。これから、一人ひとりが意識して訓練していきたいと思いました!(浅江小学校の児童)



津波が繰り返しやってくる恐怖を劇中で表現できるよう4月から工夫してきました。実際にやってみて、小学生が危険性を理解し、どう行動すればよいかを真剣に考えてくれているようでうれしかったです。(光丘高校 演劇部の生徒)

生徒は、「他者に分かりやすく教える」という活動を通して、一つのテーマについて深く学ぼうとする姿勢が見られ、地域の一員として諸課題に取り組む意識をもつことができました。学校所在地外から通っている生徒が、学校のある地域に目を向け、地域が学校に様々な形で支援してくださっていることに気が付き、恩返しをしようとしたことがとても意義深いと思います。(光丘高校 担当の山下先生)



身近な高校生が来てくれるのは、自分自身の将来の高校生像が見えるという意味でキャリア教育につながると考えています。これからも、光市の小・中・高校の連携を深めていきたいです。(浅江小学校 和田校長先生)

